

自 己 評 価 書

(平成29年度)

平成30年3月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 教育課程・指導	2
	2. 保健安全管理	1 1
	3. 組織運営	1 4
	4. 研究と研修	1 7
	5. 教育環境整備	2 2
	6. 教育実習	2 4
III	自己評価別添根拠資料一覧	3 0

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成29年5月1日)
幼児数127人 教員数10人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 平成29年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究を生かし、実践の質的向上を図る。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修体制を確立する。

(5) 評価項目

- ①教育課程・指導
 - ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
 - ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況
- ②保健安全管理
 - ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
 - ・危機管理対策の見直しと強化
- ③組織運営
 - ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況
- ④研究と研修
 - ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
 - ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
 - ・地域住民への貢献
- ⑤教育環境整備
 - ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
- ⑥教育実習
 - ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目 1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到に係る状況】

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成している。平成30年に改訂予定の幼稚園教育要領では、各領域における「ねらい」に加えて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を明示し、幼、小、中の学校教育間の接続の可視化に努めている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「言葉による伝え合い」、「協同性」、「豊かな感性と表現」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」などの項目は、中期目標（No.48）に掲げた一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」と密接なつながりをもってしているものである。本年度は幼児期から児童期への科学的思考を促す幼小接続教育課程を实践する月別指導計画並びに評価要素表の見直しを行った。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、毎月これを活用した全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行った。

平成29年度附属幼稚園オープンスクール（来園者162名・アンケート回答者63名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については98.4%の保護者及び関係者が「とてもよい」と評価している。「すべての教師が笑顔で子どもとともに遊び学んでいる。子どもたちがいきいきしている。のびのびしている。表情がよい。子どもがやりたいことをやりたいだけさせてあげている。子どもの自主性をとても感じた。」などの記述からは、主体性の伸張への高評価が得られている。教師の援助と環境の構成については、「教師が一人一人をよく見ている。子どもの意思や考えを尊重している。自由な中にもしっかりと教育計画がある。先生が熱心。教師が子どもたちとよく関わっている。全力でサポートしてくれている。子どもが自由に自分のしたいことができる。教師の環境づくりへの心配りを感じる。季節のものを取り入れて家ではなかなかできない製作などができる。子どもの個性を生かしつつ他の幼児の個性に触発されるきっかけにもあふれている。子どもがやりたいことをとことん追求して遊ぶことができる。自然も多く園でとれたものでいろいろな作品を作って想像力をのばしている。自由がある中で、協同作業もありとてもよい」などが評価されていた。

集団活動・協調性・生活習慣形成についても「集合時間に遅れずみんな納得して片付け始めた姿に感心した。自由な中にしっかりと規律がある。場所ごとに先生が必ずいてみてくれる。あいさつをきちんとできている」と評価された。

幼児教育研究会（来園者707名・アンケート回答者161名）では、幼児教育関係者の96%が公開保育の実践内容と環境整備の状況を「A. とてもよい」と評価している。また、研修会などで本園を参観した教育関係者（園長50名、教諭15名、その他1名、合計66名）の97%が幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導ができていると評価している（「大変よい」74.2%、「よい」22.7%）。また、科学的思考を促す指導計画の实践については92.4%ができていると評価した。この背景には、幼児の興味や関心を促す保育環境が適切に構成されていることが関連付けられる。

平成29年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

実施日	平成29年10月28日（土）	
対象	オープンスクール参観者	162名（アンケート回答者63名）
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述
	3 その他感想・意見	自由記述

アンケート集計結果

○保育について		
・とてもよい	62名	(98.4%)
・あまりよくない	0名	(0%)
・どちらでもない	1名	(1.6%)
・記入なし	0名	(0%)
○環境整備について		
・よく整っている	62名	(98.4%)
・もっと整えて欲しい	1名	(1.6%)
・どちらでもない	0名	(0%)
・記入なし	0名	(0%)

保育について自由記述の概要

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 子どもが自由にのびのびと遊んでいる。
- 子ども達が生き生きと遊んでいる。
- 普段見ることのできない子ども達の様子を見ることができた。
- 自分の興味があることに長時間取り組む子、短時間でいろいろなことに挑戦する子、どちらも選択できるのがとても良い。先生方もそれをあくまでも見守ることに徹底している。
- 子ども達がいきいきと活動し、集中して取り組んでいる。リレーでバトンを持つ子どもが念じるかのように力が入っている姿に幼児期の良さを感じた。
- 好きなことをして自由に遊べる環境がとてもよい。
- 子どもたちが自分がしたい遊びを全身で楽しんでいる。同じ空間にいただけで楽しさが伝わってくる。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 子どもの興味・関心が満たされる（でも押しつけではなく）、自分から求めていく力が育つ環境だと思う。
- どの子も遊びに没頭し楽しんでいる姿が印象的だった。
- 子どもが自主性をもって行動できるよう工夫されている。
- 子どもの自主性を尊重し、個々の好奇心を大事にして能力を伸ばしてくれている。実体験を重視する教育は素晴らしい。
- 自主性を大事にし、ひとりひとりの遊びが多種多様にできるよう工夫やアイデアがたくさんあり、子どもの創造性を高めている。
- 自由、活発かつ自分たちで思考しながら自主的に遊べており、子どもたちの成長を改めて感じた。

★工夫・創造性

- 自分たちでいろいろな遊びをつくり出してすばらしい。
- 自由で自分で考える力がすごくつくと思う。

★集団活動・協調性

- 子ども達が連れ添って自立的に教えあい、楽しみあっている雰囲気がある。
- 個々の好きなことをしながら、みんなで活動する時はまとまるところがすばらしい。
- 自分のペースで遊び、他の子との関係性も個人に任せている様子が良い。その様子を観察していただいている安心感がある。
- 年長のさりげないサポートがすごい。
- 子どもがぶつかったり、助け合ったりしている自然な姿をみんなが見守っている。

【幼稚園・教師について】

★教育方針・指導理念

- 子どもの遊びが広がるような言葉がけや思考できるような言葉がけを先生がしている。
- 自由な中に規範意識の指導も入っていてよかった。
- 子どもたちが色々な事に挑戦できるように環境が整っている。
- 保育時間が短くても、友達と交わりながら遊んだ、組全体の活動したり、子どもの満足100%の保育だと思う。
- 子ども達の自主性を大切にしつつ、友達同士の関わりや集団としてのまとまりを目指しながら保育が進められている。
- ひとりひとりの個性をいかしつつ皆で行動もできていて良いと思う。

★季節感や自然を大切にされた保育展開

- 自然の植物の中で四季折々の変化を感じられる環境の中で暮らせる子ども達は恵まれていると思う。同時に先生方の苦勞も察せられる。

★教師の姿勢・指導力

- 園児達のやりたいこと、遊びたいことの自主性を尊重していただいているのがよくわかった。各個人に柔軟に対応していてさすがだと思う。
- 先生がひとりひとりにきちんと向き合っている。
- 先生が目配りが素晴らしい。感謝している。
- ベテランの先生が目配りがよかった。
- 先生との距離が近くてすばらしい。
- 先生の声がけがいつものことながら温かくポジティブで見習いたいと思う。
- 子どもの自立心、年代にあった見守りしてくれている。
- 子どもが自主的に遊ぶ中、先生の声がけにより遊びが発展しているように感じた。
- 子どもたちが自分のしたいことを考え、自主的に動いてのびのびと楽しめるよう先生方が働きかけてくれていた。

環境整備について自由記述の概要

★全般に整備状況

- 清掃が細かい所までできていた。
- 物質的環境はもちろんであるがスタッフや教員の人的環境が充実している。
- 子ども達が飽きることのない遊具、設備があり清潔感もある。

- 雨の環境にも子ども達が多岐にわたる活動を支援できるようにして良かった。
- 各クラスの教室が遊び場となってよかった。
- 子どもが興味をもつ物がたくさんあり、ひとつひとつ考えられているとおもった。
- クリーンデーの成果であり、実施したかいがあった。
- 空間をうまく利用した環境だと思う。

★自然環境が豊か、季節感・自然物の活用

- 園庭の植物も美しく、保育室も子ども達が動きやすい状態であった。
- 秋らしい秋の季節が感じられる空間になっていた。
- 中庭がとてもよい。
- 花や木の手入れが行き届いている。

★安全管理

- 危なくないよう整備され、安心している。
- 尖った物や危険なものは見当たらず、安心して遊べる環境だと思う。
- 安全面に気を配り、清潔感もある行き届いた環境である。

★遊具・素材・材料等

- 道具がたくさんある。環境が整っているので何をしようかと立ち止まっている子がいない。
- 遊具や工作など外遊び、部屋遊び共に工夫があり良いと思います。
- 自分が考えたり、思ったりすることをすぐ遊びに実行できる道具や場所があると思う。
- 絵本のへやの本の量、内容に驚いた。
- ブロックの片付けが絵入りでわかりやすい。
- 手作りの物が使いやすいように整えてある。

★空間・動線・場の構成

- 色々な創作できる環境が整っている。また適切な遊ぶ広さであると思う。
- 砂場が天候に左右されず遊べるところがよい。

その他について自由記述の概要

- 今後も今のまま続けてください。
- 見学や参観をさせていただく機会を作ってくださいありがとうございます。
- 子どもと少し会話しながら普段とは違う様子が見られてよかった。
- 初めて参加させていただき、孫の様子を観察できよかった。このような機会があればまた参加したい。
- いつものことながら、とても熱心に保育していただき感謝している。
- 子どもたちが本当に楽しく園に通えているのは先生方のおかげです。
- 集団の中でどのような立ち位置にいるかを見られてよかった。
- もう少し先生の数が増えればよいと思う。
- 楽しく遊ばせることが保育ならいいと思う。
- 朝、全員集まって挨拶の時間があればよいと思う。

別添資料	1-①	平成29年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成29年度幼児教育参観者アンケート集計結果
別添資料	1-③	平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料	1-④	生活プラン
別添資料	5-②	教育関係者によるアンケート集計結果

観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」の実施と修正のもと、積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（暮らし）を受け継ぐ者として育てる。
 - ・地域（日本）の衣食住のさまざまな共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
 - ・生活の中のさまざまな問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気づく・感じる・考える・かかわる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気づく、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（かかわる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下の ABCD のカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。

A. 発見と問題解決

①好奇心・試行錯誤

- 美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。
- 多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。
- 発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。
- 「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。

②論理的に理由付けされた行動

- 季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。（帽子・手袋・上着・雨傘など）
- 使った道具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。
- 遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。
- 最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。
- 自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。

B 言葉への関心

①話すこと・聞くこと

- 人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。
- うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。
- 主述をはっきりさせて自分の意見を言う。
- 出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。
- 比喻や例を用いて話したり説明したりする。
- しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。
- 好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。
- 絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。
- トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。

②書くこと

- 書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。
- 自分の名前が分かり、平仮名で書ける。
- 書きたいと思い、文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。
- 友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）

C 数量と図形（平面・立体・空間）

①数理的な見方や考え方や表現

- 対象を比べる
 - ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数（数量）を見つけ出す。
 - 長い—短い（長さ）／大きい—小さい（体積）／多い—少ない（容積）／重い—軽い（重さ）／強い—弱い（強さ）／早い—遅い（時間）／速い—遅い（速さ）／冷たい—熱い（温度）など
 - ・ものの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。
 - 長い—短い（長さ）／高い—低い（高さ）／深い—浅い（深さ）／広い—狭い（面積）／丸い—角い（角度）など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
 - $(A > C > B)$ / $(A = B = C)$
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成）
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
 - （例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど）
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。
 - （カレーライスやクッキーなど）
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につき分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。（例：動植物や図や国旗や絵本など）
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。（例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど）
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。（ジグソーパズルや自作の遊具など）

	<ul style="list-style-type: none"> ○折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。 ○真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。 ○上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。 ○積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。 <p>④パターンと組み合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。 ○パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。（例：トランプやサイコロの目） ○並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。 ○カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。 ○日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。 ○いくつかの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。 ○自分自身でパターンをつくって楽しむ。（例 ビーズや木の実のアクセサリ・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で） ○拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。
<p>D. 協同的感性</p>	<p>①協同的な言葉や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。 ○役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。 ○友達と活動の目的や目標などについて話し合う。 ○相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。 <p>②人間を理解し関係を調整する力(21項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異質なものととの出会い <ul style="list-style-type: none"> ①自分の思うようにならないことを体験する。 ②必要なときに、人に助けを求める。 ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。 ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。 ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。 ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。 ○異質なものへの興味や関心 <ul style="list-style-type: none"> ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。 ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。 ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。 ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。 ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。 ○他者との交流 <ul style="list-style-type: none"> ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。 ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。 ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。 ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。 ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。 ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。 ○関係性をつくる <ul style="list-style-type: none"> ⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。 ⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。 ⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。 ㉑問題に対して創造的に解決しようとする。

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。このことによって具体的な幼児の姿として可視化できるようになった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼児期から児童期に向けての科学的思考力涵養をはかるという観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。

【改善を要する点】

今後、数年間をかけて、幼児・児童の学びや育ちの現状に照らし合わせながら、評価項目や内容について妥当性を検証するなどさらなる改善が必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到に係る状況】

月別の指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防・自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。また、食育についても今年度見直し、より無添加で自然の味が五感を通して楽しめるようなものをおやつ時間に提供するように努めた。近年増加している食物アレルギーの対応が必要な幼児に向けては、基本的に園児全員の体にも良く、対応の必要な幼児もできるだけ同じものをみんなで美味しく食べられるように工夫した。アレルギー対応については、4月に職員に向けた園内研修を実施し、知識・技術の向上に努めた。

保護者への保健指導に関する協力については、各組ごとに講話をし、むし歯予防に対する知識を高めた他、長期休業日前には基本的な生活習慣についての講話もした。毎月「ほけんだより」を配付して、季節に応じた疾病の予防法や現在流行している感染症についてのなどの情報を提供したり、春には健康診断の意義、秋には食についてのお知らせも配布し、家庭での指導に役立てるよう協力を求めてきた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについて

は、消毒をするなどの配慮をしている。インフルエンザ等の感染症の流行時期の前に、各部屋に塩素系の除菌剤を置くなどして予防に努めた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であるとする。

資料2-① 保健室2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・寒さが依然厳しく、インフルエンザの流行がみられる。かぜをひいたり、熱を出したりせきをしている幼児も多くみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・水たまりに張った氷を見つけ、取ってきてみんなで観察をしている。
- ・うがいや手洗いなどに関心を持ち始めている。

【ねらい】

- ・かぜやインフルエンザの予防をしようとする。
- ・寒さに負けず戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○かぜやインフルエンザの予防をする。 ・手洗い・うがいの大切さを知り実行できるようにする。 ・規則正しい生活をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かぜやインフルエンザ，その他の感染症の予防には，うがい・手洗いが大切であることを知らせ，進んで実行できるようにさせる。 ・おやつの前，外から帰った後は，必ずうがい・手洗いをするよう声をかける。 ・早寝・早起きや，バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にも伝える。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ，たとえば豆まきでは「かぜもそと」と，かぜに負けない気持ちを育てる。 ・インフルエンザにかかった場合は，出席停止の措置をとるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ○寒さに負けず，戸外で元気に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・スケーター ・忍者ごっこなどで身体を思い切り動かし，戸外で元気に遊ぶように促す。 ・寒くなると身体がかたくなり，けがをしやすいため，十分に準備運動をするなどし，けがの予防をする。
<ul style="list-style-type: none"> ○体調や温度・気候に合わせて，衣服の着脱ができたり防寒着の調整ができたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の着脱や防寒着による調節の大切さを伝える。 ・遊んだ後で汗をかいた衣服の着替えができるように促す。 ・天候や気候に合わせて，手袋や防寒着の着脱ができるように促す。
<ul style="list-style-type: none"> ○心の問題や悩みを上手に解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達とけんかしたり，遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対して，幼児の話をよく聞き，その子の思いをしっかり受け止めながら，自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。なんとなく来室した幼児に対しては，無理にその原因を追及しようとせず，居心地の良い場所となるように，温かく見守り，幼児の状態を見ながら対応し，気分を立て直して遊びに戻っていけるように支援をする。
<p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>*子どもたちの身体や心の健康について，また，子育て全般について，健康相談の場を設けるとともに，必要に応じて専門機関への連絡を取るなど，保護者のニーズにあった支援ができるようにする。</p>

別添資料 1-③ 平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「平成29年度安全管理計画－危機管理マニュアル」(別添資料2-②)を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。

また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が2人組で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの対応をしている。特に今年度は、安全点検表を見直し、項目の細分化や重点項目を意識した点検にするなど、より点検を明確かつ効率的にできるように努めた。また、5月には教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行っている。

資料2-② 防災・避難訓練の実施

① 防災訓練(地震)計画

- ・ねらい ・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成29年5月11日(木) 9:45~9:55

② 避難訓練(不審者対応)計画

- ・ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・期 日 平成29年6月1日(木) 10:50~11:05
- ・状況設定 幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定
不審者が城山側県道から侵入。幼小連携畑から幼稚園敷地内に入ってきたと想定。

③ 防災訓練(地震・火災)計画

- ・ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成29年9月1日(金) 9:40~9:50
※この日、保護者に対して「全国瞬時警報システム(以下Jアラート)」についての注意喚起と、発令時の対応について知らせた。

④ 幼小合同避難訓練(地震・津波)計画

- ・ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成29年10月3日(火) 10:39~11:00

⑤避難訓練（Jアラート警報発令時）計画

- ・ねらい ・Jアラート警報発令時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
- ・命や身体を守ることの大切さを知る。
- ・期 日 平成29年1月11日（木） 11：10～11：20

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知しているの、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めている。

別添資料 2-② 平成29年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、幼児や園の実態に応じてよりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も親しみやすいカットを入れたり、構成を考えるなどして読みやすさを工夫した。特に、流行性の疾病については、その予防や対処方法などを丁寧に紹介した。幼稚園評価アンケートにおいても「園が保護者に出す通知やほけんだよりなどはわかりやすかったですか」に89%が「そう思う」11%が「だいたいそう思う」と回答している。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようにしている。避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルを作成し教職員・保護者への周知に努めた。避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。また、様々な場面での訓練を実施し、1月のJアラート警報の発令時における避難訓練では教職員にも訓練の時間を予告しないで実施した。訓練の際には幼児が防災頭巾を着用して、より安全に避難できるように練習している。また、毎年、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。大学より支給された防災用備蓄品（飲料・食料・衛生用品等）の準備がほぼ整った。

【改善を要する点】

管理職や養護教諭が不在時の対応や、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など、訓練が形骸化しないよう、訓練の度に危機感をもって実施に臨む必要があると思われる。幼稚園の避難場所は小学校に想定されているので、さまざまな非常用の備品や備蓄品などの保管場所の検討が必要である。また、平成30年度に向けて新しい非常食の購入の必要もある。近隣のマンションからの侵入を防ぐための西側フェンスの設置等、幼児の安全を守るために必要な対応は残されていることも課題である。早急な対応を求めている。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到る状況】

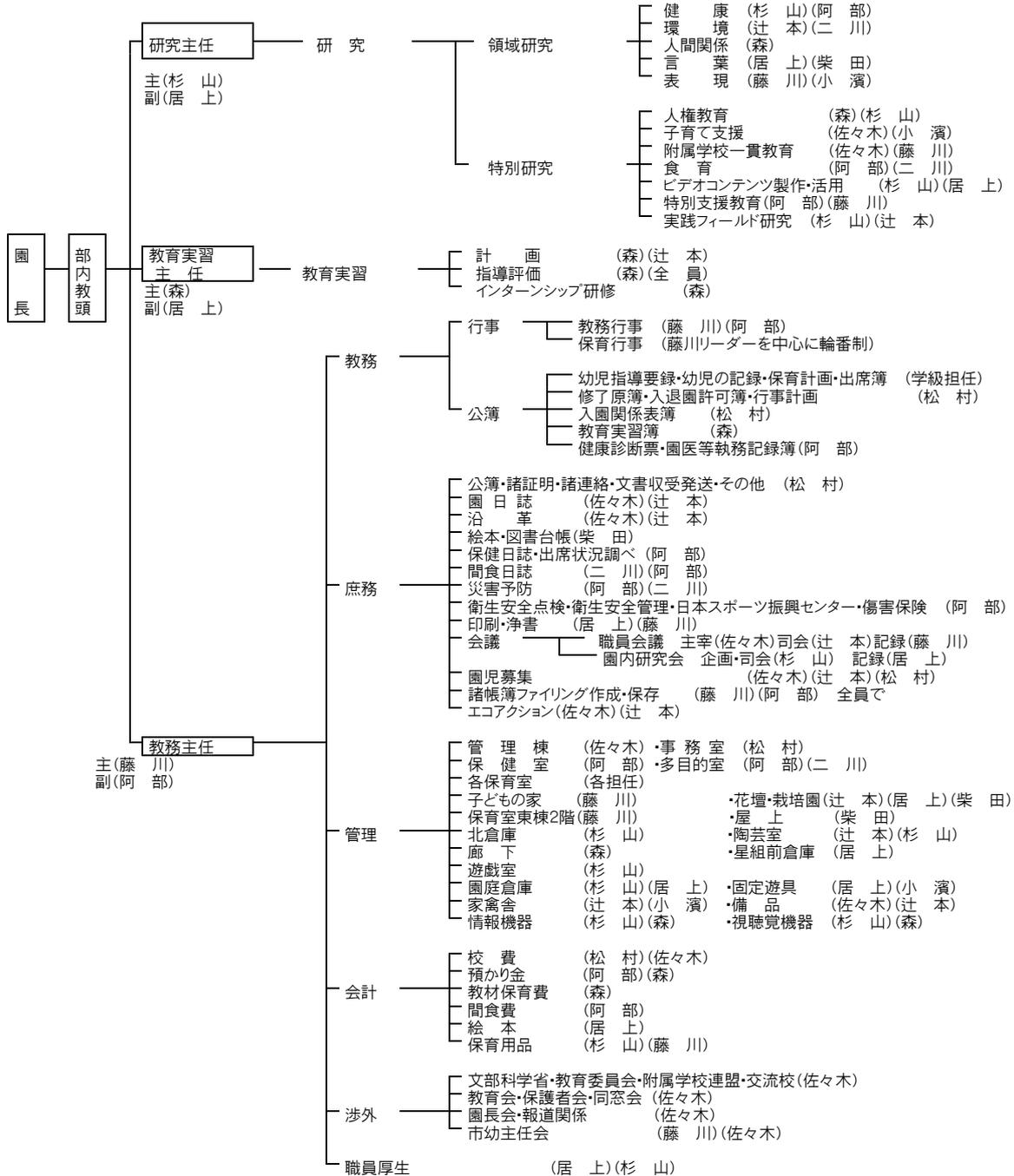
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。平成26年度より専任教頭が廃止されたので、学級担任もする部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行った。少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告にあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

資料3-① 平成29年度第1回職員会議題

平成29年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	平成29年4月1日（金） 10:00～	
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園 長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担当者)
(1) 平成29年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 平成29年度 部内教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 鳴門教育大学附属幼稚園園則・同大学中期計画・就業規則等について	資料2	(園 長)
(4) 平成29年度 園経営方針について	資料3	(園 長)
(5) 平成29年度 職員の勤務について	資料4	(園 長)
(6) 平成29年度 園務分掌について	資料5	(園 長)
(7) 平成29年度 年間行事計画について	資料6	(部内教頭)
(8) 平成29年度 学年始休業中の計画表	資料7	(部内教頭)
(9) 4月の行事予定について	資料8	(部内教頭)
(10) 新学期諸準備について	資料9	(部内教頭)
(11) 始業式について	資料10	(部内教頭)
(12) 新入園児用品渡しについて	資料11	(部内教頭)
(13) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料12	(部内教頭)
(14) 入園式について	資料13	(部内教頭)
(15) 芙蓉会規程について	資料14	(事務主任)
(16) みどり会事業計画・奨学寄付金等について	資料15	(部内教頭)
(17) 園児緊急連絡網等について		(部内教頭)
(18) 変形時間労働制年間カレンダーについて	資料16	(事務主任)
(19) 平成29年度 幼稚園要覧について	資料17	(園 長)
2 連絡事項		

(1) 文書整理・情報管理等について	(園 長)
(2) 経費節減について	(園 長)
3 その他	
(1) 労働環境協議会役員改選について	(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について	(園 長)

資料3-② 平成29年度園務分掌一覧表



【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にして少ない職員数で運営できるように工夫している。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施に当たっては全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき場合と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。

【改善を要する点】

仕事の共同作業化と処理ソフトの購入等の改善は随時行い、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

【観点到る状況】

①園内研究会・合同研究会

合同研究会は公開研究会とし、年間で全10回開催した。延べ190人の参加者を得た。

園内研究会では我が国の幼児教育が直面する課題を次のように捉え、幼児教育における先導的役割を果たそうと考えた。第一に、平成27年4月から施行された子ども・子育て支援法等の実施に伴い、教育・保育サービスの量的拡充が図られる一方で、保育の質についての議論も盛んになりつつある。これまで、本園においてもこの質の問題について「遊誘財」の視点から取り組み、さまざまな提案を重ねてきた。

第二に、保育者間の実践知伝承の問題である。団塊の世代といわれる先輩世代の大量退職によって、多くの自治体の保育現場は急激な世代交代を求められている。保育の質を担保する実践知は保育者間の協働性を活発化させるなどの方略をもって伝承・創造していくことが必要であるが、このことに関する実践研究は少ない。

そこで、「遊誘財から豊かな遊びを創り出すために」の研究主題のもと、5年計画で研究に取り組んでいる。1年次は保育者養成に視座を据え、本園において蓄積してきた研究成果を検証しつつ、実践のすべや手立てとなる具体的な幼児理解や教育方法、環境の構成などの方

略についての重要事項を保育キャリア・ステージごとに整理した。平成27年度の幼児教育研究会において研究成果を発表し、キャリア・ステージ毎の分科会において協議した結果を総括した鼎談では、質の高い保育実践を構築する上で、「幼児と共に、仲間と共に」という「共に創り出す」視点が重要であることが明らかになった。

2年次には、「どのような環境に、どのような個性をもった保育者たちが、どのようにチームとしてかわり、どのような意味や価値を創出し、さらに保育のキャリアとしていくのか？」という循環する保育実践のダイナミックスを捉えた。加えて、本学教職大学院派遣職員がスーパーバイザーとなって記録の様式やカンファレンスの進め方を提案し、研究主任を支えるような形で研修やカリキュラムマネジメントを展開した。このような問題意識と過程を経て集積した記録や事例は、幼年発達支援コース、教員養成特別コースの教員並びに佐々木宏子名誉教授の研究者チームが分析・考察を進め、保育キャリアの違いを生かした協同性・同僚性の在り方を示した。団塊の世代といわれる先輩世代の大量退職によって多くの自治体の保育現場は急激な世代交代を求められている。そのような今日、私どものアプローチは、保育の質を担保する保育者間の実践知伝承を促す試みとして、現場や教育委員会をはじめとする関係者から高い評価を得ることができた。

これまでの研究過程では、保育キャリアや保育者の個性の違いを保育の質を高める多様性の一つとして捉え、それらを生かしたマネジメントの方略を提案してきたわけであるが、3年次となる本年度は、この「違い」の部分を焦点化した。保育の「かんどころ」「要所」「核心」「キモ」「ポイント」など、保育を語る時に様々に表現されるこの質の部分を、可視化する事はできるのか？異なる保育キャリア、異なる個性の間で伝え合い共有することは可能なのか？そのために有効な手立てはいかなるものか？を明らかにした。研究紀要第50集を刊行し、幼児教育研究会において成果を発表した。

②研究発表会

11月4日（土）に実施した幼児教育研究会には県内外から707名が参加した。午前中には、平成30年4月より全面実施される新幼稚園教育要領が目指す、知識や技能の基礎、思考力・判断力、表現力等の基礎、学びに向かう力・人間性等を環境を通して行う教育の方略によって体現した保育実践を公開した。午後からは、山下一夫学長の挨拶、杉山研究主任と幼年発達支援コースの田村教授による研究発表、幼小接続とキャリアステージ別分科会、文部科学省視学官の湯川秀樹氏による講演会を行った。

研究会参観者アンケートの「本日の研修や参観の内容について」の項目においても96.6パーセントがとてもよいと評価している。

別添資料 1-② 平成29年度 幼児教育研究会アンケート集計結果

*実施日：平成29年11月19日 アンケート回収236名

*所属：県内：幼稚園21名（29.6%）保育所10名（14.0%）認定こども園20名（28.2%）

県外：幼稚園103名（62.8%）保育所29名（17.7%）認定こども園10名（6.1%）その他・教育委員会・大学等22名（13.4%）

とてもよい あまりよくない どちらでもない 無回答 計

1. 公開保育について	228 96.6%	1 0.4%	5 2.1%	2 0.8%	236 100.0%
<p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の様々な姿、のびのびと遊ぶ姿が見られた ・幼児が、屋内外で遊びを選んで、思い思いに遊んでいた ・素材や用具などが、机の上に整えられていて、幼児が「やってみよう」と思えるのだと感じた ・室内、園庭、中庭、屋上すべてを有効活用し、様々な遊びの場を用意していた ・保育者が、普段から沢山話し合いをして、協力して保育にあたっているのが伝わってきた ・新たなゲーム遊びや、その時の保育者の心がけを知ることができた。 ・幼児自身が考えて行動し、友達と関わり合っていた ・年長組では、幼児中心で話が進んでおり、保育者は見守るかたちで、とても驚いた ・小学校や他の保育所との連携を図ることができる ・保育者の言葉が、幼児の気持ちに寄り添った肯定的なものが多かった ・ハルーンを普段の遊びに取り入れているのが新鮮だった ・保育者が、その場で少しコメントしてくれるのが分かりやすかった ・子どもが主体的に遊び、生活している様子が垣間見られてとても勉強になりました。 ・いろいろな道具を使って遊んでいる子どもの姿が印象的でした。 ・子どもたち、先生方、普段と違って変わらないのびのびとした保育が見られてとても勉強になりました。 ・子どもたちも自分がしたい遊びを主体的に見つけ意欲的に取り組み生き生きとした姿を観させていただきました。 ・子どもたちが自由に自分の思いのまま生活している姿はとても生き生きとしてよかったです。勉強になりました。 ・様々な子どもたちの活動を見せていただき自分たちのしたいことを楽しんでいる姿が見れました。普段の生活が同じようにされているのだと思いました。 ・自ら遊べる環境、子ども一人一人を大切にしている。 ・子どもたちがしっかりと遊びを見つけ遊びこめていて、環境ができていからだと勉強になりました。 ・子どもたちが生き生きと生活していて、子どもの自主性をとても感じました。資料を見せていただき、自主性の裏に先生方の反省、試行が何度も繰り返されていることを知り、本当に勉強になりました。 ・先生方が自分の保育について話し合い高め合っているのが良く分かった。 ・普段のありのままの子どもたちの遊びやかかわりを見ることができ大変勉強になった。こんなに多数の教員が見学しているにもかかわらず、普段通りの遊びを楽しむ姿から、個々の幼児が本当に心を動かして遊び込んでいるのだと改めて遊びの環境、過程の大切さを感じた。 					

とてもよい あまりよくない どちらでもない 無回答 計

2. 環境整備について	230 97.5%	2 0.8%	2 0.8%	2 0.8%	236 100.0%
<p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児がのびのびと遊びを展開していたから ・全ての道具を幼児が自ら選び、自由に使えるので、そのときにしたいと思ったことが、すぐにできる ・幼児中心に考えられた、沢山の素材や道具があるが、綺麗に整理されており、乱雑になることがなく、遊び込まれているように感じた ・幼児からの案が、実際に形になっているのだと感じた ・少しごちゃごちゃを感じた ・季節を感じられる植物が、考えて育てられている ・清潔感がある ・トイレの設備がとても綺麗であった ・自然物が豊かである ・砂場の数が多く、幼児が存分に砂で遊ぶことができる。 ・手作りのものが多く、あたたかみを感じた。 ・幼小接続の菜園があった ・年齢に合わせて、使う道具や素材を分けていた ・学年ごとに庭があり、誰でも行き来できる ・ままごと道具、木工等についても使い込まれた道具でとてもよかった。 ・園全体どこも、とても心地よい。そして活きているという印象をもった。 ・今日の日のためではない、毎日活かされているという感じがした。 ・部屋のつくり、園庭も本当に狭いことに驚いた。が、この園の環境だからこそできる環境構成を考えていて大変勉強になった。もっと広ければ、もっとフリーのスペースがあれば継続した遊びができるのに・・・と、いう思い込みで安易に諦めてしまっているのではと振り返るきっかけになった。 ・遊びはじめの設定が学びになった。 ・幼児クラスですが、片付けは先生がされていたようで、理由があるのか。 ・勉強になった。 ・秋の自然物、身近な材料(素材)を使った環境作りがよかった。 ・必要とするであろう素材をたっぶりいろいろな種類用意されていた。 					

3. 研究について					
<p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師も財の一つ、どんなものが子どもにとって財になるのかたくさん勉強できました。 ・遊誘財一素晴らしいテーマで今年も勉強させていただきました。可視化の視点の捉え方が本当に大切だなと思いました。様々な事例をしっかりと捉え自分で残していくことが大切だな。 ・研究会までの遊びや職員間の立ち位置や役割について知ることができた。 ・保育カンファレンス・振り返りを園全体です。明日への保育へつながっていることがよく分かった。リーダーになる先生自ら、自分の失敗事例を取り上げその原因はどこにあり、どうすべきかと理論に結び付けているところが具体性がありわかりやすかった。 ・すぐ丁寧に研究されていて面白かったです。 ・記録によって振り返り、幼児の姿の読み取り、教師と幼児のズレへの気づき等がしっかりとされていた。 ・可視化することで、どんな思いがあって自分はそうしたのか、何を改善するべきなのか分りやすくなるのではないかと考えた。 ・園に何年かいると子どもの思いより自分の都合を優先させてしまうことがある。振り返る良い機会だった。 ・遊誘財には「人」も含まれる。子どもと関わる教師も子ども達にとって大きな影響があることが分かった。 ・「見えること」「できること」を注視しがちだが、という内容が心に残った。 ・グループ討議があるととても具体的な質問がでたのではないかと。 ・指導計画はとても勉強になった。 ・「漫画」というテーマが少し分りづらかった。保育の1視点でしか書かれていないのが疑問 ・自分が子どもへの対応に対して、「反省する覚悟」はとても大事だと感じた。 ・長縄のエピソードを見て、1年目の頃の自分なら子どもの育ち等を見ず、すぐ見て分かるものしか感じとれない。 ・研究発表を聞いて、より保育の熟達者に向かうためには、段階を上げていくためには、何が必要で、どうしていくべきか迷う。 ・やまぐみのじゃんけんに参加させてもらって、あの大勢の大人の中でも、しっかりと自分を表現してすごいと思った。子どもが自信をもてるような保育をされているのだと感じた。 ・可視化というテーマにあったが、分科会で最後その可視化について話を聞けたら良かった。 ・実践しながら、保育と向き合っているのですねということが良く分かった。 					

4. 分科会について

<フレッシュ>

- ・今の自分の悩みと似ていて、共感できるものが多く、とても参考になった
- ・保育者の決めつけで、子どもの本当の思いに気づけないことがあるということを知った
- ・保育の悩みに対してのアプローチなど、参考になった
- ・子どもの本当の思いに気づき、子どもと一緒に遊びを広げていきたいと思った
- ・気になる子に対して、できないことばかりに目を向けるのではなく、その子の世界に寄り添うことで良い面を伸ばしていけるようななかかわりをしていきたい
- ・記録の活用方法、先輩への相談など、体験を元に聞いて良かった

<ミドル>

- ・それぞれの年代に合わせて良かったと思うが、初めて来た為4歳児を見学あまりできなく、分かりづらい所もあった。(足場、バルーン)
- ・成功体験ばかりではなくて、困っていることや失敗したことも話してくれて良かった。
- ・全員が一生懸命を望んでいた、経験から固定観念でみてしまっているところがたくさんあり、反省でした。
- ・事例を元に分かりやすかった。
- ・保育者として日々の葛藤は同じで、自分を客観的に見たような分科会だった。鍋島先生がおっしゃっていたように流動的にならないように、日々の記録のもとに向き合っていきたいと思った。
- ・今日の子どもの様子を交えながら話されていて良かった。
- ・研究協議のテーマやねらいが分かりにくかった。
- ・保育の仕事をしている以上は、周りの人々のコミュニケーションを保育のため、子どものため、保護者のために有意義にとる必要がある。
- ・先の事を考えて、保育を止めてしまいがちですが、子ども達の思いに寄り添い、子ども達の声を聞いた保育を目指したい。
- ・先生方の姿から「自由さ」をとても感じました。
- ・リアルな意見を聞くことができた。
- ・同じような悩みを抱えていたので、少し光が見えてきた。「我慢」をキーワードに月曜から頑張る、楽しんでいきたいです。
- ・子どもの思いに寄り添いたい気持ちと、「こんな経験してほしい」という教師の思いの中で、葛藤することが自分でもよくあるので、身近な悩みとして、感じる事ができた。
- ・保育者の葛藤、子どもの思いと保育者のねらいをどうすりあわせていくのか、フロアからの話しがあった。
- ・実践を人に見られるのが嫌、評価されているのが嫌ではなく、豊かな子どもの成長を育むためにも話し合いみんなで考えることが大切だと感じた。

<ミドルリーダー>

- ・教師としての在り方、こども・保育に向き合う姿勢を学ぶことができました。
- ・問うこと問われること学ぶこと学び続けること、生活を振り返りとてもたいせつなこと、自分が踏ん張らなければならないことを学びました。
- ・園のリーダーとして若手を育てていくことや園全体のことに気を配ったりすることなど迷うことや戸惑うことの多い日々ですが、辻本先生の「問い続ける」ことの話聞き、自問自答しながら職員全体で園の課題に向かっていく大切さ、お互いの信頼関係を築いていくことの大切さを改めて学びました。
- ・いろいろな立場の方の話が聞けてとてもよかったです。保育説明もわかりやすく吸い込まれるようであったという間の時間でした。とても良いお話が聞けました。
- ・日々の生活が保育につながる。その先生の感性や気づきなどが大切であり若年の先生に問うことを常に心がけていきたいと思った。そのことで自分の振り返りにも学びにもなると思った。
- ・ミドルリーダーとしての役割の大きさを教えていただきました。
- ・優しさの中にある厳しさを感じました。
- ・若い先生へ「問う」ことが私の役割なんだと改めて感じました。また、生活を充実することの大切さも知らせていきたいと思います。
- ・先生方の思いに圧倒されながらも初めて大学を出てクラスを任せて頂いた頃、恩師の先生等が思い出されました。
- ・すごく勉強になりました。今まさに若い子たちへの指導に悩んでいる毎日です。そんなことまで言われなければ・・・と思うこともたくさんあり・・・自分たちで考えたりできるような伝え方、問いかけを工夫していきたいです。
- ・保育の反省や本日まで話が写真を通して深く聞くことができてよかったです。先生の魅力が子どもたち一人ひとりの安心して過ごすことに?がっている。
- ・お二人の先生の実践や心意気が素晴らしく、わが市のレベルの差がありすぎて感想を言うのもおこがましく黙ってしまって申し訳なかった。

<p><リーダー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア別の分科会は実感できてよかった。 ・少人数で話し合える場があってもよかったかと思う。 ・園長先生の話はとてもためになる話だった。 ・職員研修の持ち方に対しては悩みがつきないというところであったのですが、基本的には子どもを育てることと同じであること、それぞれの先生たちの輝いているところをみつけていくことを改めて再確認できた。 ・具体的な研修の仕方においても自分自身がいろいろなことに興味関心をもって取り入れられること+B17:G20をどんどん取り入れながら自分たちに合った研修を見つけていきたい。 ・関心のある若手育成、マネジメントについて話が聞けてよかった。 ・私の園では、12名のうち2名しか専任・正規がない。これまでは、立場が違うので仕方が無いと諦めていたが、一人ひとりをどう生かしていくかリーダーシップについて考えることが出来た。 ・佐々木先生の一人ひとりへの思いが「ソフト」としたら、一人ひとりが生かされる「ハード(システム?)」についても聞きたかった。役割分担、チームということ。 ・事例、質疑応答もとてもよかった。 ・環境の写真をとる時間があつたら嬉しかったです。 ・職員研修に欠かせない研修や保育園には少ない継続した研究発表等参考にしたいと思った。 ・管理職としての役割について分かりやすく具体的に教えていただいた。
<p><幼小接続></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字について木下先生のお話で「伝えたいから書く」ということが特に心に残った。 ・それぞれの視点からの意見も聞くことができとてもわかりやすかった。 ・幼稚園、小学校両方を経験されている先生を聞くことができよかった。 ・学びは遊びのなかにある。数量、文字を使った遊びを保育に取り入れていきたいとおもった。 ・明るく的確な言葉かけ、これからの保育のヒントになった。 ・小学校の先生方の意見を多く聞くことができ幼稚園教育が活動の中で、現在何を学び小学校への接続となるどの部分かを意識することの大切さを再認識した。 ・遊びの中から必然性必要性に基づいたものが学びにつながっていくことがよくわかった。 ・幼小へ何をつなげるかという問いの答えが少し見えてきたように思う。内なる思いを大切に遊びに学びに向かっていく姿こそ、小学校でも受け継ぐべきだと痛感した。小学校にうまく適応させるためのものではなく、幼児期の学びの土台を小学校で活かすためにもスタートカリキュラムを整備しなくてはならないと思いました。
<p>5. 講演について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい要領ですが取り組むことが明確化され自分が進めたかっ幼小の接続の援護をいただいたようです。じっくりと取り組み、すばやく動きこちらから小学校へつながっていきたいです。子どもの姿を育ちを一層頑張りたいです。 ・少し難しかったです。 ・子どもの生活をより良いものにするために改訂を理解し自分のものにしていけるようにしていきたいと思いました。 ・話しをまとめて時間に終わって欲しい。 ・少し内容が難しかった。 ・聞き取りにくかった。教育要領の話が分かりやすかった。 ・資料を取るのが大変だった。 ・詳しく説明してくださり良かった。 ・基本的は何も変わらない。より明確化されたということで、今まで実践していることを具体的に、進めていきたい。 ・小学校との連携も互いを知り、なめらかに接続していけるようにしていきたい。 ・要領のつくられた行政の内容ばかりだったので、行政の都合とかばかり聞きたいわけではなく、もう少し「日本の保育の質」等について、世界に対応するには、やはりこのような教育が必要であるという話であってほしかった。 ・何度か説明を受けてきたが、複数回聞くことで改訂のポイント、変わることも変わらないことについて理解を深めることができた。
<p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも勉強させていただき、感謝です。 ・貴重な時間を過ごさせていただきありがとうございました。 ・荷物を持ち歩いたの参観は少し辛かった。預ける場所があればと思った。 ・3歳の阿波踊りは最高でした。とても可愛かったです。さすが徳島の子どもたちだなと思った。 ・何気ないところに目配り気配りできる杉山先生はすごいです。 ・おやつがおいしそうでした。手作りですらやましいです。 ・初めて参加しましたが、来年も来たいです。子どもたちの姿からパワーをもらい、先生方の援助、環境を見て「私ももっと工夫したい、頑張る！」と思うことができた。

以上の通り、幼児教育関係者への研修支援ができています。

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修 幼稚園担当指導主事・担当者会議 1名
- ・全附連幼稚園部会への参加等 3名
- ・日本保育学会第70回大会（於 川崎学園）自主シンポジウム並びにポスター発表にて遊蕩財研究を生かした保育者養成について成果を発表（幼年発達支援コースと共同）
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、養護教諭研修会、学校保健安全研究協議会、幼稚園等新規採用教諭研修 等
- ・全国及び県・市幼稚園教育研究協議会、全幼研、教育会主催の研究会 等
- ・その他セミナー・学会・研究会 等

以上の通り、数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し、そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、公開保育の提供としては、次のとおりである。

- ・園長が平成29年度「徳島県幼児教育アクションプランⅡ推進連絡協議会」委員，平成29年度徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー，平成29年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員，公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部の支部長を務めた。
- ・合同研究会の開催
- ・徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・県幼稚園等新規採用教員研修（56名×2回）・幼稚園長等運営管理協議会（42名），徳島県小教研生活課部会（30名）における指導
- ・平成29年度幼稚園新規採用教諭研修，保育技術協議会，教育課程研究協議会等の県教育委員会主催の研修会への講師派遣
- ・教員の県内外研修会への講演講師の派遣（徳島県教育委員会・保育事業団，徳島市教育委員会，徳島県幼稚園・こども園教育研究協議会板野郡大会・三好郡市大会・吉野川市大会・阿波市大会・名西郡大会，阿南市教育委員会，北島町教育委員会，高槻市教育委員会，高知県教育委員会，兵庫県神戸市・姫路市・明石市・伊丹市・相生市・たつの市・赤穂市・加西市教育委員会，香川県高松市・丸亀市・さぬき市・木田香川郡教育委員会，大阪府幼稚園長会，岡山県幼稚園長会，岡山県津山市・総社市・倉敷市・新見市・高梁市教育委員会，大分県教育委員会，奈良県教育委員会）
- ・国立教育研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」協力
- ・他県からの研修受け入れ並びに実地指導
公立幼稚園・小学校・保育所（丸亀市23名・岐阜市1名・津山市9名・静岡市6名他）
国立大学附属幼稚園（北海道教育大学2名・高知大学1名）

観点4-3 地域住民への貢献

【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち、専門性を発揮し、次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。参加者約162人（10月28日）
- ・教育講演会の開催。今年度は、本学 阿形恒秀 教授を講師に「子どもは誰のもの？ー子どもの自立を考えるー」と題した講演会を開催し、約160名の参加者を得た。（9月11日）

【分析結果と根拠理由】

毎週定例の園内研究会や合同研究会で、豊かな遊誘財を創出するための資質についてカンファレンスを実施し協議を重ねた。また、今年度から研究保育を公開にして実施したことは、

教員の指導力向上に直結し、保育の質の向上に寄与したと思われる。

また、園外での研究会・研修会の参加も多岐にわたり、参加職員による報告会をもつなどして職員全体で現在の幼児教育に関する最新の情報を共有している。このことから、教員の資質向上のための園内外での研修は充実していると言える。

別添資料 1－④ 生活プラン（2014.8.1 発行）

別添資料 1－② 平成 29 年度幼児教育研究会参加者アンケート集計結果

別添資料 4－① 研究紀要第 50 集

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

県内外より研究や実践指導の依頼があり、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている。

合同研究会では、幼年発達支援コースはじめ教員養成特別コースなど、本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て、多面的な視点からの保育カンファレンスで協議が深められた。これまで構築してきた実践資料を整理し、実際に保育を行った保育者らによる保育記録の分析がすすめられた。

また、大学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実に繋がっている。また、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究へ向かう意欲が高まっている。また、研修会参加者は研修報告を行うことで研修成果を全職員に伝達している。担任外教員（非常勤講師）が配置されているため、数多くの研修会への派遣が可能となっている。

地域住民に対しては、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている。

【改善を要する点】

平成 27 年度からの子ども・子育て支援法のもと、公・私立幼稚園や保育所の認定こども園化が加速することが想定される。子ども・子育て支援法の対象となっていない国立大学附属幼稚園としての危機感を職員全員で共有し、なお一層の教育研究の成果アピールをする必要がある。

さらに、大学附属の利点を生かし他大学教員や附属学校教員など、豊かで質の高い大学の人的・文化的環境を資質向上を図る研修に活用できるよう、多面的な連携研究を積極的に働きかけたい。

入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについて、一定の条件を設けざるを得ないという課題も残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点 5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

管理棟並びに廊下、階段、各棟のトイレの照明が LED となり、照度が上がり、電気消費量が削減できた。加えて、園庭の樹木剪定、4歳組中庭のテント取替、遊戯室オーディオミキサー更新など、施設・設備の充実が行われた。

資料 5-① 施設・設備の改善工事要求内容

要求順位	工事内容	要求理由
1	各保育室並びに遊戯室の照明の LED 化	幼児の製作や表現活動の多い各保育室と遊戯室の LED 化が残されており、今後の設置を希望している。
2	西側フェンス設置	幼稚園西側に10階建ての分譲マンションが建設された。現有の西側フェンスは低くマンションが高いため死角が出来ることになり、外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のため、早急に現有のものより高いフェンスの設置を願う。
3	園舎外壁の補修及び塗装	園舎外壁全体にモルタルの剥がれ落ちや、ひび割れがありひどい状態である。園児の安全確保や美観のためにも補修を願う。雨どいの腐食もひどい。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。

本園の環境整備についてのアンケート集計結果は、オープンスクール参加者では98.4%がよく整っていると認めている。

今年度は幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の伝達の年にあたり、平成30年4月からの改訂と全面実施を控えている。そこで、教育委員会や幼稚園、保育所、認定こども園の各教育関係者に、新教育要領等の改訂の視点で、かつ異なった立場や考え方からの評価を求めるべく、小教研生活科部会や園外研修におけるアンケートも実施した。教育関係者によるアンケート集計結果（資料5-②）では、「幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について」は、96.1%からよいとの評価を得た。また、「3. 園の環境衛生や危機管理体制について」では、94.2%からよいとの評

価を得ている。「6. 安全・維持管理のため環境整備について」は、98.1%からよいとの評価を得ている。

資料5-② 平成29年度 教育関係者によるアンケート集計結果

*実施日：小教研生活科部会(8/8・30名) 聴覚支援学校(8/8・2名) 丸亀市参観(2/5・20名) 計52名							
*職種：園長14名(27%) 副園長2名(4%) 教頭3名(5.8%) 校長3名(5.8%) 教諭27名(52%) 教育委員会3名(5.8%) 計52名							
アンケート項目	5	4	3	2	1	無回答	計
1. 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について。	44 84.6%	6 11.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.9%	52 100.0%
2. 科学的思考を促す指導計画の実践について。	41 78.9%	11 21.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
3. 園の環境衛生や危機管理体制について。	39 75.0%	10 19.2%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.9%	52 100.0%
4. 職員の保育に向かう姿勢や参観者への対応に	47 90.4%	4 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	52 100.0%
5. 幼児の興味や関心を促す保育環境について。	49 93.8%	3 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
6. 安全・維持管理のため環境整備について。	37 71.2%	14 26.9%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	52 100.0%
7. 本日の研修や参観の内容について。	47 90.4%	4 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	52 100.0%
8. その他(感想)	園内随所に幼児の気づきや学びにつながる仕掛けがたくさんあった。職員と幼児との暖かな関係が印象に残った。 子ども達が楽しみながら遊びに夢中になれる環境づくりがよい。個人、グループ、学級のダイナミックで細やかな指導がよかった。 保育の中で、不自由さ、無駄、失敗、つまずきはどのように捉えているのだろう。 環境整備が整っている。隅々まで配慮が行き届いていた。 小学校との接続が確立している。 保育・幼児教育の基本を学べた。子供たちの没頭する姿や試行錯誤する姿勢がよかった。						
	【5(大変よい) 4(よい) 3(普通) 2(あまりよくない) 1(よくない) 無回答】						

別添資料	1-①	平成29年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
別添資料	1-②	平成29年度幼児教育研究会アンケート集計結果
別添資料	5-②	参観者によるアンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備についてはすぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境が常に美しく整備されている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび

割れ、配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが、現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため、しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。近隣のマンションからの侵入を防ぐための西側フェンスの設置等、幼児の安全を守るために必要な対応は残されていることは課題である。早急な対応を求めている。本学施設課の迅速な対応と教職員による環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている 」と判断する。

評価項目6 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月11日

学部1年生幼児教育専修5名

大学院生1名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月12日、13日

学部3年生5名、大学院生2名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校園実習・教員インターンシップ オリエンテーション 7月11日

学部3年生5名、大学院生2名

④附属学校園実習 9月4日～9月29日

学部3年生5名、大学院生2名、四国大学3年生1名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。

計画表は<資料6-①>の通りである。

カリキュラムマネジメント力を促す実習の工夫について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢

や考え方を学んでいった。また評価については、週ごとに<資料6-②>の自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

資料6-① 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習要項	指 導 要 項	時 間	備 考
1	9月4日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 身体測定(4歳) 高知大附属園長 ・北海道保育参観	観察参加	○教育実習の意義、本園の教育について(佐々木園長) ○安全点検(杉山・居上) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について ●記録のとり方について	14:30~15:00 15:00~15:30 15:30~16:30 16:30~	・諸書類提出 ・保育終了後に記念写真撮影 (実習生・職員)※正装
	9月5日	火	身体測定(3歳児) 入園希望者参観 ① 高知大附属園長 ・北海道保育参観	保育(一部)	●第1週保育内容について ●領域研究・環境 ○本園の教育課程・指導計画・日案、幼児理解と幼児指導について(佐々木園長) ○学級経営・学級事務(佐々木園長)	13:30~15:30 15:30~16:30	
	9月6日	水	午後保育日 みどり会理事会	保育(一日)	○本園の人権教育について(佐々木園長) ○研究保育者決定・評価保育日程について(森) ●領域研究・言葉	14:30~15:00 15:00~15:30 15:30~	
	9月7日	木	教育実習模範保育(山組:辻本)	観察参加	○保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30~15:30 15:30~	
	9月8日	金	午後保育日 視力検査(5歳児)	保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について(杉山) ●第3週保育内容について	14:30~15:00 15:00~15:30 15:30~	
	9月9日	土					
	9月10日	日					
2	9月11日	月	午後保育日 聴力検査(5歳児) 教育講演会 ふれあい実習	保育(一日)	○はとぼっぼのたいそう練習 ○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現 ○研究保育案作成	14:30~	第1週記録 第2週計画提出 教育講演会参加
	9月12日	火	入学者希望参観 ②	保育(一日) おやつ の 部屋	○家庭との連携、保健・安全指導について (佐々木園長) ○研究保育案作成	13:30~14:00 14:00~	
	9月13日	水		保育(一日)	○研究保育案作成(印刷・環境準備)	14:30~	

			日)			
	9月14日	木	実習生研究保育 水質検査一般環境検査	研究保育	○研究保育反省会	13:30～15:00
	9月15日	金	第7回職員会議	保育(一日)	○行事教育-運動会・園外保育について(杉山) ●第3週保育内容・評価保育について	15:30～16:00 16:00～ 教育講演会参加
	9月16日	土				
	9月17日	日				
3	9月18日	月	敬老の日			
	9月19日	火	入園希望者参観 ③	保育(一日) おやつ の 部屋	○評価保育①指導案作成(印刷・環境準備)	13:30～ 第2週記録 第3週計画提出
	9月20日	水	午後保育日 実習生評価保育 ① 学校安全の日	評価保育 ①	○評価保育①反省会	14:30～
	9月21日	木		保育(一日) おやつ の 部屋		13:30～
	9月22日	金	午後保育日	保育(一日)	●第4週保育内容について	14:30～15:30
	9月23日	土				
	9月24日	日				
4	9月25日	月	午後保育日 園外保育(芋掘り)	保育(一部)	●評価保育②指導案作成(印刷・環境準備)	14:30～ 第3週記録 第4週計画提出
	9月26日	火	実習生評価保育 ②	評価保育 ②	●評価保育②反省会	13:30～
	9月27日	水	午後保育日 (園外保育予備日)	保育(一日)		
	9月28日	木	入園希望者参観 ④			
	9月29日	金	午後保育日 主免教育実習終了	保育(一部)	●教育実習反省会	15:00～
	10月7日	土	運動会			
	10月8日	日	運動会予備日			

資料 6-② 自己評価観点表

評価観点	第一週	第二週
幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察参加の中で幼児の行動観察記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・ 自分のかかわった幼児を中心に、遊びの様子やエピソードを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の行動観察記録やエピソード記録をとり、遊びに込められた教育的意義について考察する。 ・ 幼児の行為（現象）について記録し、その意味について考察する。 ・ 一人一人の幼児の発達の状況と指導の重点について記述し、幼児理解を進める。
環境の構成と指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育を観察し、環境の構成や具体的な指導について記録し、基本的な保育の構えと意味について理解する。 ・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・ 教育課程と指導計画について理解を進める。 ・ 一部保育場面についての指導案を作成し、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程と指導計画の関連について考察しながら、一部保育場面及び一日の保育についての指導案を作成し、指導を行う。 ・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）について研究しながら、実際に環境の構成を行い、その結果について考察する。 ・ 幼稚園教育指導要領の各領域について研究し理解を進める。 ・ 園外保育の下見、指導案の作成、指導の実際などを通して地域環境を取り込んだ保育実践の展開や留意事項、危機管理について理解する。
幼児とのかかわり（指導の実際）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育の実際について観察し、保育後のカンファレンスに参加する。 ・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の実態（興味や関心、発達の状況など）についての読み取りと、実際の指導、幼児の反応や活動を相互に関係付けながら省察する。 ・ 自分自身の幼児とのかかわりを記録し、意識化を図りながら、指導教員や他の教生たちとのディスカッションを行う。
保育評価と省察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の保育の記録をとり、教師の意図や幼児との応答の様子、幼児の活動の変化について考察する。 ・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の保育の記録をとり、環境の構成、教師の意図、幼児との応答の様子、幼児の活動の変化についてディスカッションし考察する。 ・ 幼児の記録（行動観察記録・エピソード記録）について考察する。
学級経営と学級事務の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員より学級の実態や学級経営方針について説明を受け、それについてのディスカッションを行う。 ・ 学級事務についての考え方について説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員と共に学級事務にかかわりながら実務を体験する。 ・ 保健・安全指導について養護教諭並びに担任から講話を受ける。 ・ 人権教育について講話を受け、ディスカッションの中で課題を意識化させる。 ・ 家庭との連携について講話を受け、幼児を取り巻く諸環境や保育実践の背景について理解する。
自己評価観点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己課題をもって保育観察及び幼児の観察ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己課題をもって保育ができたか。 ・ 一人一人の幼児についてどのように理

<ul style="list-style-type: none"> ・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育観察，講話，ディスカッション等から得た知見を記録し自分なりの解釈を記述できたか。 ・幼児や他の保育者たちと共に学び合い成長しようとする心情や意欲，態度であったか。
---	---

【分析結果と根拠理由】

今年度も、幼稚園における幼児との直接的なかかわりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。今年度の実習生は、保育に対する思いが強く、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、全てにおいて一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指すことができた。「子どもとともに生きる」という基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図れた実習となった。

また、研究保育，評価保育等，大学から担当教員が園に来てくださり，実習を観ての指導も頂いている。大学側からの意見や質問もあったり，激励にもなったりと実習の充実に繋がっている。

教育実習とは別に，幼年発達支援コースとの自然プロジェクト（フレンドシップ事業による）のボランティアとして学生が保育参加する中で，より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ，実習にもよい影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり，保護者からも多くの支持を得た実習であった。

資料 1－③ 平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

－ 教育実習生のお子様へのかかわりで気付いたことをあげてください －

- ・しっかりと子どもたちに関わってくれている。
- ・とても一生懸命に取り組んでいる。
- ・子どもに近い目線での関わりがありがたい。
- ・短い期間で，幼児一人一人に目を向けるのは難しいとは思いますが，つまずいている場面や嬉しい場面等に気付いてあげられるようがんばってほしい。
- ・いつも笑顔で優しい対応してくれた。
- ・実習最後に手作りのプレゼントをいただき感動した。忙しい中，心を込めてくれて親も嬉しかった。

別添資料 1－③ 平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書

（2）優れた点・改善を要する点

【優れた点】

- ・ふれあい実習，観察実習の実施，ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に，実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートがスムーズにきれている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより，実習期間中の指導・対応もしやすい。
- ・学級配当は実習生の希望も考慮して配属した。そのことによって，教員の指導も細かくで

きるようになった。また、手書きの指導案作成を見直し、パソコンの使用も認めるなど、効果的な時間の使い方ができるよう改善した。

- ・教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身につけようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気づきや課題の明確化がそれぞれに図られ、多くの成果が得られた実習となった。
- ・配属された年限での指導が深まるように配慮し、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにした(6-① 実地教育計画表参照)。その結果、1日の保育を振り返り反省する時間や、翌日以降の保育計画立案にあてる時間が十分に確保され、保育指導案の内容がとても良くなった。
- ・大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

【改善を要する点】

- ・保育指導案・資料作成等について、実習生が効率的に作成できるような環境づくりが必要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

III 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	資料番号	資 料 名
1	1-①	平成29年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成29年度幼児教育研究会参加者アンケート集計結果
	1-③	平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	1-④	生活プラン(2014.8.1発行)
2	1-③	平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	2-①	ほけんだより2月号(2018.2.1発行)
	2-②	平成29年度安全管理計画-危機管理マニュアル
4	1-④	生活プラン(2014.8.1発行)
	1-②	平成29年度幼児教育研究会参加者アンケート集計結果
	4-①	研究紀要第50集(2017.11.4発行)
5	1-①	平成29年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	1-②	平成29年度研究会アンケート集計結果
	5-②	平成29年度教育関係者によるアンケート集計結果
6	1-③	平成29年度幼稚園評価アンケート結果報告書